

令和4年5月26日

(第2回ワーキングチーム会議資料)

第1回ワーキングチーム会議(5/11(水))より

1. 授業コマ数と必要な教室数について

①理科室

- ・中高別の実験室があるといい。
- ・高校で4部屋(物理室、化学室、生物室、講義室)、中学校で3部屋が必要。
- ・地学は使用していない。標本室、暗室等はわからない。
- ・特別実験室までは必要ないのではないか。

②音楽室

- ・授業は1教室でできるが、部活のこともあり、部活用の教室は必要。

③美術室

- ・授業は1教室でできるが、部活のこともあり、2部屋必要かもしれない。

④調理室

- ・高校は4, 5限目を中心に組んでいるので1部屋だと中学校の時間割が厳しくなるかもしれない。

⑤書道室、技術室はそれぞれで必要。

⑦体育館

- ・現在高校16コマ、中学16コマで2コマ出ている。高校は2クラスで1.2体、中学は90人で1.2体を使用するので中学の調整は厳しい、高校の体育科の考え方がある。(ジオの活用?)

2. 設置する部活動と活動場所について

- ・地域移行の考えがあるが、不透明なので中高とも現在の部活で考える。
- ・高校バスケ、中学卓球、中学女子ソフトは地域の競技団体等の受け皿によりどちらかになくても存続する可能性はある。ただ、高校バスケや中学女子ソフトが精選できれば活動場所は広がる。
- ・第1体育館でバレーコートが3面になるとバスケットゴールの移動や防球ネットの設置などの工事が必要。(グラウンドの整備も)
- ・ジオアリーナは現在6面しか使えず、現中高生バド部90名は難しい。
- ・工夫はするが、狭いので近隣の施設の利用も視野に入れた方がいい。(奥越特別支援学校、成器西小学校、中部中学校等)
- ・スポ少との絡みがあって、部活動だけでなく広く考える必要がある。
- ・県立では部活送迎用にバスを利用している学校もある。

3. 中高連携の柱

- ・中学校は勝山市を中心に探究活動をする。高校はそれを基に視野を広げて探究活動をするかどうか。(スパイラルを2回するイメージ)
- ・いいものは広め、課題はどうやって解決していくかという姿勢を一貫するかどうか。
- ・高校の探究科は自己を理解して自己実現につなげる形になる。
- ・探究には知識も必要、企業や大学の先生にも協力してもらおう。
- ・お互いの取組みを見たり、人材バンクを共有したりして系統性が図られるといい。